

活動成果報告書

平成29年度（第21回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

イクメン応援セミナー

～安心して子育て・子育てするまちづくりを目指して～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

母子保健グループ

代表者：前原 友美



勤務先：多治見市役所

所 属：市民健康部 保健センター

所在地：〒507-8787

岐阜県多治見市音羽町1-71-1

TEL：0572-22-1111

FAX：0572-25-8866



◇活動方針

多治見市では第7次総合計画の中で、特に女性の活躍と子育て・子育てを後押しする施策を推進している。

また、地域力を高めるべく、子育て支援団体と深く連携し、取り組んでいることが特徴である。

平成27年1月に駅北新庁舎が開庁し、保健センター・子ども支援課・教育関係課・親子広場が同フロアとなっており、次世代育成フロアとして機能している。お互いに情報を共有・連携し、妊娠期から切れ目のない子育て支援が行える環境となっている。

近年の核家族化・地域の希薄化が進み、働く母親が増える中、母親の育児負担は大きくなっているため、父親の役割が重要になっている。積極的に育児にかかわる「イクメン」という言葉も認知されてきているが、実際は子どもとどう関わったらよいか分からない、父親自身が地域でのつながりがほとんどないという課題がある。

保健センターでは平成11年からママパパスクールを実施し、妊娠期から夫婦で協力して育児をする事を支援しているが、父親が地域や子育て仲間とつながり、情報を得ながら育児・家事に主体的に関わるための動機づけをし、夫婦で安心して育児ができることを支援する目的で、子育て支援団体の協力を得て3課協働の講座を開催した。

活動成果報告書

◇活動内容

より実践的な支援とするため、父親の調理実習、出産前後の夫婦交流、子どもを身近に見る（育児・発達の見通しを持つ）内容とした。

また、働く世代への健康づくりの動機づけとして、栄養講話を取り入れた。

開催日 平成28年6月26日(日)・12月4日(日)

時間 午前9時30分～13時

場所 駅北庁舎3階（親子ひろば・保健センター）

対象者 妊婦とその夫・8カ月未満の子どもがいる夫婦

定員 各回12組

参加費 1人300円（食材費）

周知 市広報、赤ちゃん訪問、母子手帳交付・乳児健診などでチラシを配布

スタッフ 保健センター（保健師・栄養士）・子ども支援課（栄養士）・教育推進課職員
NPO法人スタッフ

- 内容
- ・父親は健康と栄養について講話、手軽にできる昼食づくり
 - ・母親は赤ちゃんとのふれあい、妊産婦一緒に交流会
 - ・みんなで昼食を食べながら参加者同士の交流（子どもは同室で託児）
 - ・親子ふれあい遊び

	父親	母親
9:30～	あいさつ（教育委員会教諭）・自己紹介	
9:40 ～ 11:25	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養講話：健康的な食生活 ・調理実習 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ ・ふれあい遊び ・交流会
11:30 ～ 12:30	ふれあいランチセミナー <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代同士で、情報交換しながら食事 ・栄養士の講話：メニューのポイント・食育について 	
～13:00	ふれあい遊び・自由交流会 *必要時に応じて健康・育児相談	

◇活動

結果

- ・参加者 平成28年6月26日(日)：9組（妊婦1組・産婦8組）
平成28年12月4日(日)：7組（妊婦2組・産婦5組） 合計16組
申込みは10組・11組であったが、体調不良などでキャンセルがあり参加者は少なかった
- ・参加動機として、父親は「料理を学びたい」「妻に勧められて」、母親は「友達作り」、「父の協力を求めて」の参加が多かった
- ・普段から家事や育児に積極的な父親が多かったが、栄養講話は真剣に聞き「食事について参考になった」という感想が多くあった

活動成果報告書

- ・母親同士、和やかに交流し産婦が妊婦にアドバイスをするなど、情報交換ができていた
- ・父親、母親ともに日頃の感謝のことばが聞かれ、夫婦で役割を見直す機会になっていた
- ・父親も参加者同士が話しながら和やかな雰囲気の中で調理をし、「他者との交流が良かった」「家族で参加できる講座がもっとあるとよい」という意見があった
- ・セミナー終了後も夫婦同士で話し込む姿や、連絡先を交換する姿が見られ、交流が図られていた

◇成果

参加者は少数であったが、産前産後を問わず他の家族と交流することで情報を共有できていた。

父親の参加理由は「妻の勧め」が多かったが、「他者との交流が良かった」という感想が多く、地域でのつながりが少ない分、多くの育児情報を得られたことや他の父親とのつながりを持てたことが良かったのではないかと考える。

3課が協働することで、妊娠期から切れ目のない子育て支援体制ができていることや育児情報を周知できただけでなく、各課が子育て施策の課題・今後の方向性について共有できたことも成果であると考えている。

特に教育委員会の教諭によって、これから育児をしていく両親に情報発信をすることで、子育ての見通しをつける点で有効であった。

また、親子広場を会場とし、運営を委託している NPO 法人スタッフに参加してもらうことで、育児支援の場や人を知る機会となり、今後安心して親子広場を利用できることに繋がると考える。

◇今後の計画

アンケートの結果から、交流の場や親子で参加できる講座のニーズが高いことが伺えた。

また、父親が育児・健康について学ぶことは、夫婦で安心して子育てをする基盤となり重要であると考えている。平成 29 年度からは親子のふれあい遊びを充実し、父親が他の親子と育児の楽しみ方や関わり方について学び、親子の愛着や心を育てることを学ぶ講座としている。

母親だけでなく、夫婦が地域とのつながりを持ちながら子育てができることは、孤立した育児や虐待を予防し、地域で安心して子育て・子育てができることを考え、今後も他機関や地域の支援団体と連携を図り推進していきたいと考える。